

富士見町の有害鳥獣対策の現状

～有害鳥獣被害ゼロを目指して～

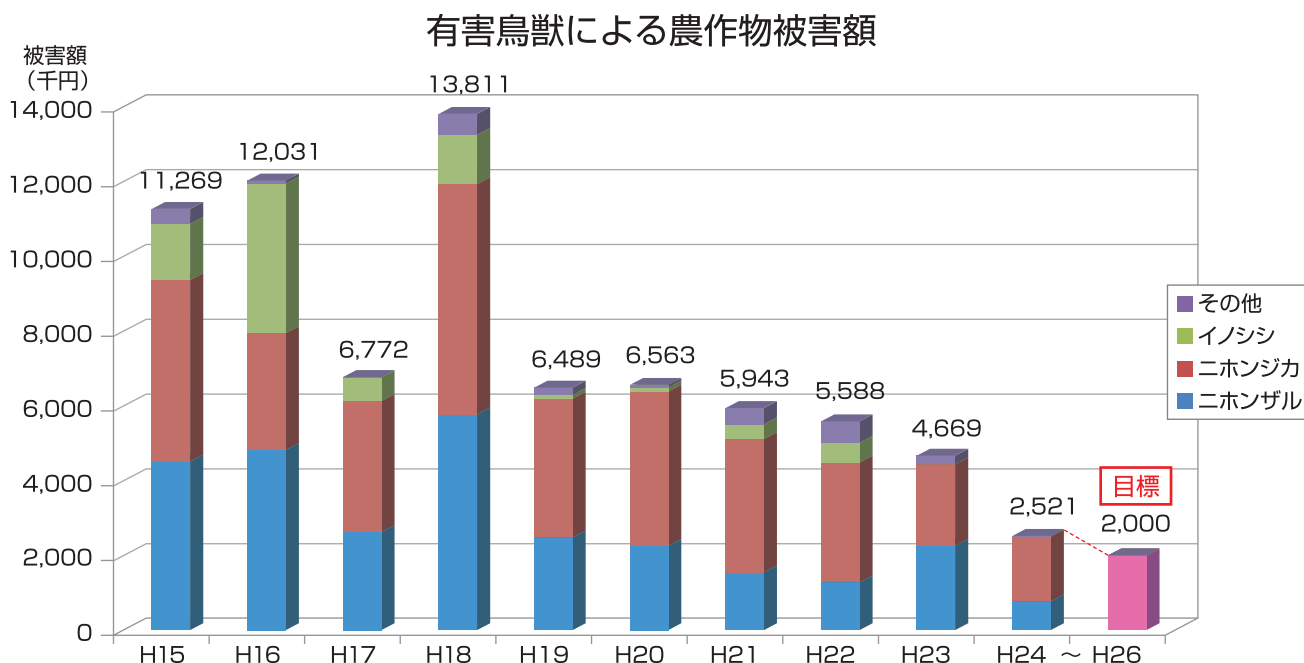
はじめに

富士見町の野生鳥獣による農林業被害額は平成18年度をピークに減少しておりますが、平成19～22年度で約5～6百万円と下げ止まりの傾向にありました。

また、被害の大半はシカやサルによるもので、農林業における経済的な損失や生産意欲の減退により、耕作を諦める農家も増えるなど集落機能の維持低下が大変懸念されています。

このことから、富士見町では平成23年6月、有識者からなる有害鳥獣対策プロジェクト会議を設立。それまでの対策を抜本的に見直した「富士見町有害鳥獣対策実行計画」を策定し、平成26年度の農林業被害額を2百万円に削減するため、電牧柵の中にあるシカを駆除するとともに電牧柵の隙間対策によって野生鳥獣の侵入をゼロにすることを目標に対策を講じています。

被害額の状況



現在も、二ホンザル・ニホンジカによる被害や出没の情報は多く寄せられています。また、被害が日常的になってしまい耕作をやめてしまう田畑も見られ、そのことが被害範囲を拡大させる要因の一つとなっています。

※対策を行う上でも被害状況や鳥獣の生息数の正確な情報が必要となりますので、農作物の被害や有害鳥獣の出没状況について農林係又は区・集落組合までご報告をお願いします。

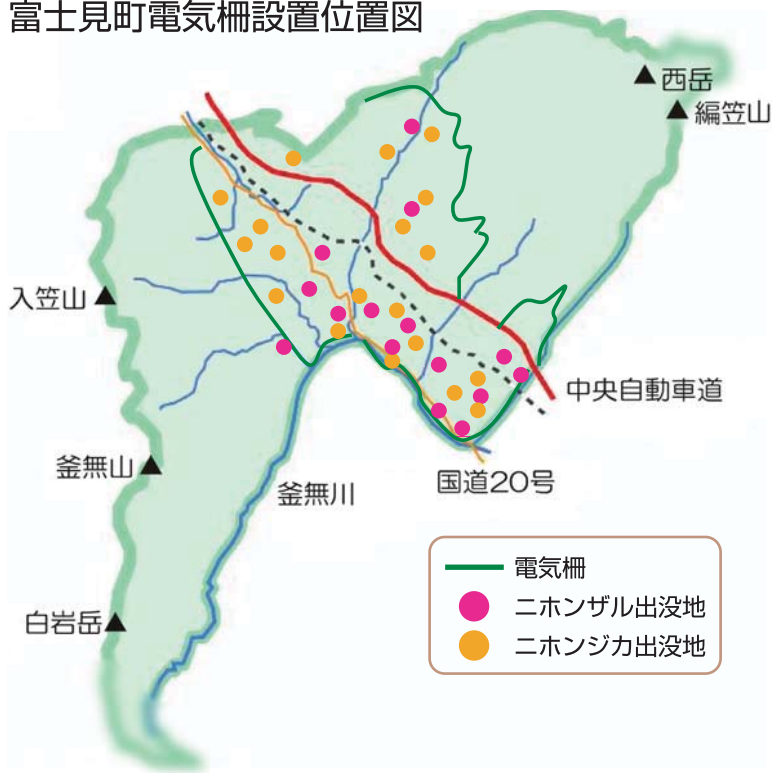
■サルによる被害を減らすための勉強会の開催について

サルによる農林業被害を個人でなくするには限界があり、集落全体で対策を講じることが必要です。そこで、学習会を開いて、鳥獣の生態・追い払い方法・防除方法について勉強し、集落として何ができるのか考えてみませんか？

希望の集落がありましたら農林係までご連絡をお願いします。

電気柵の設置状況及び出没状況

富士見町電気柵設置位置図

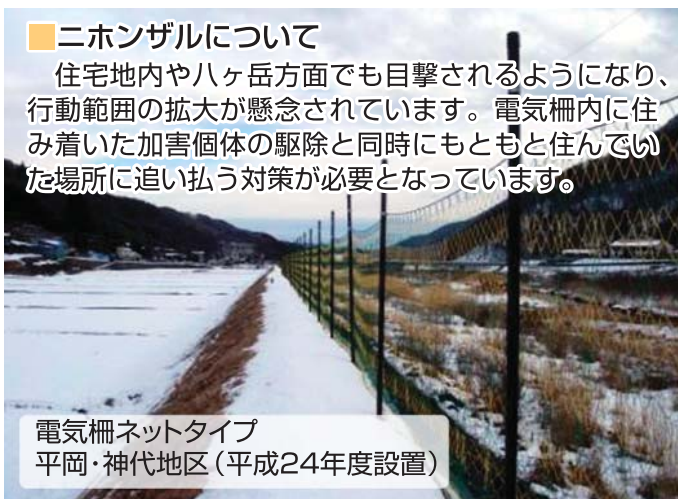


農地への有害鳥獣の侵入を防ぐため、農地を電気柵で囲いこむ整備を平成14年度から開始しました。昨年、小六地区に電気柵を設置したことにより囲い込みがほぼ終了し、今年度は、高さの低い電気柵（神戸・栗生・大平・松目・平岡・神代）を2.0m以上にするなど電気柵の機能UPを図りました。

現在電気柵の延長は約43kmとなっており、今後は「農地への有害鳥獣の侵入ゼロ」を目標に隙間対策を行います。

ニホンザルについて

住宅地内やハケ岳方面でも目撃されるようになり、行動範囲の拡大が懸念されています。電気柵内に住み着いた加害個体の駆除と同時にもともと住んでいた場所に追い払う対策が必要となっています。



電気柵ネットタイプ
平岡・神代地区（平成24年度設置）

ニホンジカについて

電気柵内に住み着いたニホンジカが町内全体で見られ、特に田植え直後の苗やソバの実の食害が多く報告されています。

電気柵内の個体数も増加傾向にあり、駆除や定期的な巡回活動などの防除対策を行っています。



センサーカメラに映ったシカの群

狩猟免許の取得について

被害対策の主要な担い手である狩猟者確保が大きな問題となっています。町では、猟友会の育成と若手狩猟者確保を目的として、新規に有害鳥獣捕獲を銃器で行う方を支援します。具体的には銃砲所持許可を取得するための経費について最大3万円の補助を行います。

この支援事業を受けるには以下の要件が必要となります。

- ① 新規に銃猟免許を取得する方
- ② 町猟友会に加入して有害鳥獣捕獲に従事した方

狩猟免許試験の詳細、申し込みについては、農林係までご相談ください。



電気柵フェンスタイプ
御射山神戸～松目地区（平成24年度設置）

問 産業課 農林係 ☎62-9232